校長経営戦略予算（次長枠）

・基礎学力の支援事業

自己肯定感および基礎学力の向上をめざし、小学校では英検ジュニアや英検ＥＳＧ、中学校では漢字検定や文章検定を実施する

・スクールボランティア支援事業

学校における教育活動の支援にあたるボランティアに対し、1日2,700円の報償金と交通費を支給する

・に～よん個別復習塾（民間事業者を活用した基礎学力支援事業）

小学校５・６年生と中学生を対象に、区民会館、区民ホール、オンラインで少人数形式の塾を実施

ブロック予算

◆ブロック全体に対する支援　校種ごとに次の取組を基本に希望実施

【小学校】(1) (2)のどちらかあるいは両方を選択、(3)は希望校に実施

(1)英検ジュニア、漢字検定　(2)新聞の購読　(3)学校適応感尺度（アセス）アンケート、hyperQU、Q-U

【中学校】(1)はどちらかを選択、(2)は希望校に実施

(1)漢字検定、英語検定　(2)リーディングスキルテスト、学校適応感尺度（アセス）アンケート、hyperQU、Q-U

【学びサポーター】

学校規模に応じて予算配布し、１校当たりの上限額を決め個別の事情を考慮し特別加配を行う

その他　こどもサポートネット　など

外国につながるこどもの教育～第1共生支援拠点　らんまんの活用状況より＠西淀川区～

	R3	R4	R5
初期対応（入国・入学時の指導部面談対応）	18	28	33
プレクラス 大阪市に編入学・転入学する子どものうち、日本の学校文化に馴染みがなく、日本語によるコミュニケーションができない子どもへの初期集中支援を行い、特別の教育課程にもとづいて、一定期間、共生支援拠点に設置されたプレクラスにおいて、学校生活で使う簡単な日本語や学校文化等を学ぶ。	3	14	15
JSL 外国から編入学・転入学した子どもが一定期間の初期日本語指導を終え、教室での一斉授業を受けているが、学習言語が理解できないため、学力の向上につながりにくかったり、進学する高校の選択が制限されたりする現状を改善するため、教科指導における支援を行い、日本語力の向上を図るとともに、学力の向上をめざす。	21	12	8

※JSLについては、令和５年度より各小中学校につき１回の制限が設けられた

現状、傾向など

・中国語を母語とする児童が多い（第１ブロックは他ブロックと比較すると他言語も多い）
・小学1年生について座学の指導が必要
・中学3年生の学齢が増えてきている
・他拠点からの受け入れを行っている（第３ブロックの急増の影響）

外国につながるこどもの教育～区役所の取組～

にしよど☆グッドスタート

外国につながる就学前児童が、教育を受ける機会を逃すことなく小学校に入学し、学校において適切な教育的支援が受けられることを目的とし、区役所が区内保育園等から情報を収取し、小学校につなぐ

にしよどグッドスタート for ハイスクール

外国につながりのある子どもの希望する進路の実現につなげるため、中等教育を終えた後に高校等への入学をめざす、生徒への学習支援を区役所で週に１回行う

たぶんか高校進学セミナー

外国につながる子どもの高校進学支援を目的として、外国につながる子どもと家族に高校進学についての情報を提供し、子どもの際に当事者だった先輩とともに話し、将来のキャリアや夢につなげていく

区　教　育　次　長　学　校　訪　問

＜目的＞

　区教育次長が各校を訪問し、教育活動の取組や学校内の様子を拝見・拝聴することで、各校の状況・特色や、データ・書面のみでは伝わらない生の声を直接感じとる機会を創出する。また、区教育次長（区役所）と校長（学校）の情報共有を図る。

＜期間＞

　5月17日～6月11日

共通的な（複数校から出た）課題

●教員の育成にかかる課題

・勤務経験歴が浅い　・担任経験ない　・職員間の連携の強化が必要　・育児時間勤務などにより育成する時間の確保が困難

●働き方改革関係

・教員の業務量が多い　・働き方改革にかかる保護者、地域などの理解の促進

●学力が高いとは言えない状況にある

●単学級による課題

・クラス替えがないことによる生徒間の関係性（いじめ等への対応）　・同学年の担任同士でのフォローや気付きが無い

特色ある取り組み

☆主任会議　☆担任のローテーション　☆時間外の電話対応の短縮　☆行事の時間短縮

☆専科制・教科担任制（小学校）の導入　☆リーディングDX　☆科目によっては習熟度別の授業

☆幼・小・中学校の連携（意見交換、出前授業など）☆地域との連携強化（地域の運動会、地域の会議、防災訓練など）